Save Tropical Forests

ウータン・ル

HUTAN Group

144

森の通信

2022.5.13

中央カリマンタン（ボルネオ島・インドネシア）の村で、フルーツの効率的な栽培ができるようになることを目指し、果樹の接木など栄養繁殖の方法について学習・実践

CONTENTS

・People (62) 中村彩乃さん……p 3
・学習会「森林破壊バイオマス発電」報告 …p4〜5
・森林破壊バイオマス発電にストップを 他…p 6〜7
・「ボルネオ島に木を植えよう」報告……p 8〜9
・ウータンメンバーのインタビュー動画…p 10〜11
・世界とボルネオの森林ニュース ……p 12〜13

この春、F.C.Manisのマルヤマサチコさんが描いた絵本に登場するオランウータンのキャラクター「マニス」の着ぐるみが大活躍！

動物解放マーチでは、この世に生を受けたすべての動物が、人と同じように自由に生きられる世界であるべきだと訴える人々と、

世界気候アクション0325マーチでは、気候変動に具体的な対策を求める若者たちと、

アースデイ京都では、「ひとつだけの地球を守ろう！」をテーマにプラカードを作った子どもたちとともに・・

すべての生きものが分け隔てなく、幸せに生きられる世界を求めて行進しました。

事務局長　石崎雄一郎

【ウータン活動記録】

1月 東カリマンタンにて植林地のモニタリング作業（CAN/Conservation Action Network）
1/14 第6回 NGO/NPO と環境省の意見交換会（いっしー）
2/8,3/22 泉大津図書館 SHEEPRA 環境セミナーで講演（いっしー）
2/9,10 中央カリマンタンにてアグロフォレストリーに関する環境教育（Tanjung Lestari）
2/12 「広報メディアを寄付につなげるために、オンライン寄付システムへ誘導する コンテンツ・発信方法について検討する」ワークショップ 間絵莉子さん講師
2/15 【共催セミナー】「Z世代と環境NGOが見た、バイオマス発電の多様なリスク～環境・社会・ビジネスの視点から～」
2/25,26 熱帯林学習会「STOP！森林破壊バイオマス発電～気候正義の実現に向けて、Z世代がいま伝えたいこと～」FFF Sendai 鴫原さん、池澤さん講師
3/9～13 中央カリマンタンにて植林地のモニタリング作業（Tanjung Lestari）
3/9,4/5 消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク会議（いっしー、yucco）
3/11 機関投資家及び融資機関71社宛に、住友商事株式会社に対してESGエンゲージメント強化及び投資撤退を求める要請書を送付
3/17 企業のエシカル通信簿 第5回結果発表会（いっしー、yucco）
3/20,3/25,4/17 動物解放マーチ、世界気候アクション0325マーチ、アースデイ京都キッズパレードにて着ぐるみで行進
3/26 西宮でのヴィーガンフェスに出展（いっしー、missy、れいこさん）
1～4月 他NGOと共同でバイオマス発電への提言活動ミーティング約10回、金融機関とのオンライン対話5回（いっしー）

People 62

中村彩乃さん

カリマンタンの森で暮らす人々との出会いから森林問題に興味をもつようになる

ウータンとの関わりは、2005年頃からです。中カリマンタン州にある友人の実家に連れていってもらったことがきっかけで、カリマンタンの文化や森林問題に興味を持つようになりました。帰国後、主にボルネオ島をフィールドに、森を守る活動をしているウータンの存在を知り、事務所を訪ねることにしました。中崎町にある古びたサクラビルの階段を上がり、資料や本が目一杯詰め込まれている本棚が囲む部屋の中で、森で暮らす人々や生息する動物への熱い思いを語る西岡さんと初めて会いました。そのエネルギーに圧倒されたことや、サクラビルのノスタルジックな雰囲気がとても印象に残っています。

ウータンでの活動の中で、西カリマンタン州にあるオイルパームのプランテーションに反対する人々の村に滞在する機会がありました。そこでは、人々が生活の糧を森に依存しているのですが、決して森を破壊しないためのルールを作り、森を守って生きている暮らしを垣間見ることができました。

昨年の8月に、4年ぶりに北陸から関西に戻りました。現在、人口1,500人の小さな村に住み、耕作放棄地を開墾しています。ここでは、村を離れた人が自身の土地に太陽光パネルを設置するケースが多く、今後村内に太陽光パネルが乱立することを危惧しています。一定の規制を設けられないか調査していこうと考えています。

（文責・中村彩乃）

学習会「STOP！森林破壊バイオマス発電～気候正義の実現に向けて、Z世代がいま伝えたいこと～」の報告

北村翔一

2022年 2月25日(金)@京都、2月26日(土)@大阪
ゲスト登壇者 (FFF SENDAI):
池澤美月さん（東北大学教育学部３年生）
鳴原宏一朗さん（東北大学法学部４年生）

執筆を担当した北村翔一です。気候危機は今まさに起きていることで、迅速な対応をする必要があると思いました。気候危機に対していろんな見解があるので、それぞれ注目していくべきだと思います。

FridaysForFuture

FridaysForFutureは、2018年8月、15歳のグレタ・トゥンベリら若い活動家が、気候危機に対する対策の欠如に抗議するため、3週間にわたり学校をストライキしてスウェーデン国会前に座りこんだことから始まった若者主導の運動です。世界中、日本中に活動拠点があり、1000万人以上の若者がストライキなどに参加しています。

気候危機の実態

一つ目は気温上昇です。2020年、世界の平均気温は産業革命前に比べ約1.2度上昇しています。その原因としては人間の経済活動が排出した二酸化炭素、メタンなどの温室効果ガスです。2021～2040年の間に、1.5度に達してしまいます。産業革命以前よりも1.5度以上の気温上昇になってしまうと、後戻りできないような地球環境の荒廃、生物の大量絶滅が始まってしまう可能性が高いと言われています。

しかし、今すでにいろんな被害が出ています。二つ目は異常気象です。毎年のように異常気象が世界中で起きています。日本では2019年、台風19号が宮城県丸森町で、自治体として最多の11名の命を奪いました。そして一昨年の熊本豪雨の時は100万人以上に避難勧告が出されました。

三つ目は気候難民です。気候難民というのは気候変動の影響によって住む場所を奪われてしまった人のことです。特に自然環境とか天候に左右されやすい農業や漁業などの仕事をしている途上国の人々が気候変動の影響を大きく受けていて、生活ができない状況になってきています。一例として、氷床が溶けて海面が上昇して、生活圏が水没してしまう国や沈みかけている国があります。世界銀行の予測によれば、もしこのまま温暖化が進んでしまったら2050年には1億4300万人の気候難民が生まれると言われています。

ホットハウス・アース（温室と化した地球）

ロックストーム（環境学者）が提唱した概念です。「今は我々人間がコントロールを握っているが、気温上昇が2°Cを超えた段階で地球のシステムは友人から敵に変わる。人類の運命は、均衡を乱した地球のシステムに完全に委ねられる」と主張しています。今は人類を守っている地球の自然現象が、人類の敵になる可能性があると指摘しました。

消費を変えるだけでは気候危機は止まらない

日本でよく目にするのが、マイバックやヴィーガン、節電など、一人一人の生活の中でできることを選択したり、呼び掛けたりする取り組みです。しかし、これらの取り組みは限定的です。まったく効果がないわけではありませんが、気候危機への取り組みは自然や人間から富を吸い上げてきた企業の活動、格差、貧困の拡大を許してきたシステムに対する闘いです。

気候正義とは

気候正義とは、先進国に暮らす人々が化石燃料を大量消費してきたことで引き起こした気候変動への責任を果たし、すべての人々の暮らしと生態

系の尊さを重視した取り組みを行う事によって、化石燃料をこれまであまり使ってこなかった途上国の方が被害を被っている不公平さを正していこうという考え方です。世界の高収入の10%の人々が温室効果ガスの約半分を排出しており、収入の低い50%の人々の排出は全体の10%ぐらいになります。気候変動の度合い、加害の度合い、責任の差があります。

「森林破壊バイオマス」を問題化する必要がある

気候変動対策として扱われるバイオマス発電ですが、必ずしも環境にいいとは限りません。バイオマス発電にもいろんな種類があります。環境保護よりも発電で利益を得ることを目的に森林が破壊されています。「森林破壊バイオマス」とは地球の持続可能性を考慮せず、企業の利益を優先し、バイオマス燃料を生産するために自然環境を破壊するバイオマス発電事業のことです。バイオ燃料の生産、輸送、消費の各過程における環境破壊と人権侵害を問題化する必要があります。

仙台の事例紹介（バイオマス発電の問題）

事例① 仙台高松 住友商事のバイオマス発電

石炭火力発電所を計画していましたが、反対運動によってバイオマス専焼に変更。生産の段階での森林破壊が起きています。住友商事は、発電所で燃やす木材ペレットを「バイオマス燃料」としてアメリカおよびカナダから輸入しています。現地では大規模な森林伐採がされています。そして生産段階での人権侵害が起きているかもしれません。カナダの先住民が住む森林が破壊されているという情報がありますが、詳しいことは分かっていません。そしてベトナムから木材ペレットの輸入量が増えていますが、人々にどのような被害が出ているのか、まだ分かっていません。

事例② 角田市パーム油発電

旅行会社大手H.I.Sによる事業です。パーム油とは、アブラヤシの実から取れる油で食品、化粧品、洗剤などに使われています。パーム油はインドネシアとマレーシアで世界の生産量の約90%を占めています。生産の段階で、森林破壊と人権侵害が起きています。熱帯林、泥炭地の開発の影響で、元々蓄えられていた温室効果ガスが大気中に放出されています。あと、天然林が破壊され、アブラヤシのプランテーションに変えられています。農園での強制労働や児童労働、性差別、農薬による健康被害などが報告されています。生産の拡大に伴って、土地が奪われ、土地をめぐる紛争や訴訟も起きています。

事例③ 石巻市G-bioによるバイオマス発電

この事例も生産段階で問題がありました。モザンビークにあるポンガミアという木の実を使って燃やして発電しようという計画でした。ポンガミアを栽培するために、元々住んでいた人々を追い払ったり、森林破壊などをして栽培するつもりでした。しかし、国の制度としてポンガミアは高値として買取する発電として許さないという話があり、パームに変更しました。他の輸入バイオマスと同様、遠方からの輸送のためCO2を排出しています。あと、この発電所は住宅地のほぼ中心地に位置し、地区全土に影響が及ぶ可能性があります。

Z世代が伝えたいこと

池澤さん：私は気候変動問題に対しては危機感があって取り組んでいます。その中でバイオマスの問題を知って、今取り組まなきゃいけないとしだいに思うようになりました。

鳴原さん：今後、バイオマスの問題に対して力をいれて取り組んでいく必要があると思います。森林破壊バイオマスのことをまだ知らない人がたくさんいます。あと、実態が分からないことが多いので、明かしていくべきだと思います。一緒に皆さんと協力して問題解決に繋げていきたいです！

森林破壊バイオマス発電にストップを！

石崎雄一郎

～機関投資家及び融資機関71社宛に、住友商事（株）に対してESGエンゲージメント強化及び投資撤退を求める要請書を送付しました～

2020年、地域住民＆NGOのタッグで舞鶴・福知山のパーム油発電はストップ！さらにパーム油の値段が上がったことで現在日本でのパーム油発電事業はすべて停止しています。

しかし、パーム油以外のFIT（固定価格買取制度）を用いたバイオマス発電も全国各地で認定されています。その多くが海沿いの港で計画されています。つまり、燃料を輸入して発電をするのです。それは、海外から資源を強奪する一方で、日本に暮らす市民のお金を海外に流出させる石油、石炭、原子力による発電と変わりません。

輸入バイオマス発電は、果たしてエコだといえるのでしょうか？現在、輸入が計画されている木質ペレットの主要な生産地はアメリカやカナダです。そこには固有種や希少種が生息する原生林、湿地林、天然林が広がっています。カリブー、コヨーテ、野生のネコ、希少なカエル、新種の貝、湿地に集まる渡り鳥…生物多様性の森が皆伐され、燃やされ電気にされる。想像を絶する自然破壊が目前に迫っているのです。

先日ウータンの学習会でゲスト講演いただいたFridays For Future Sendaiのメンバーが活動する仙台では、いくつかのバイオマス発電事業が計画されています。その一つが、住友商事株式会社と住友商事東北株式会社の共同出資である仙台港バイオマスパワー合同会社によるもの。世界の自然を破壊し、そこに暮らす地域住民の人権を蹂躙し、日本で発電現場の地域住民への健康被害をも懸念されるバイオマス発電を止めなくてはなりません。

さらに、バイオマス発電は燃焼時の温室効果ガス排出係数は石炭よりも高く、気候変動に致命的な影響をもたらします。仮に伐採した地に植林をしても再生に数十～数百年かかるとされ、元の豊かな生態系には戻りません。全くカーボンニュートラルではないグリーンウォッシュなのです。気候変動が進めば、さらなる自然災害が起きるでしょう。そのような計画が東日本大震災で甚大な津波被害があった仙台港で進んでいるのは大きな皮肉であり悲劇的です。

ウータン・森と生活を考える会は、2022年3月11日、Fridays For Future Sendai、Mighty Earth、プランテーション・ウォッチ、熱帯林行動ネットワーク（JATAN）とともに、10カ国32団体の賛同を得て、住友商事株式会社の株主と想定される機関投資家及び融資機関71社宛に、『住友商事株式会社に対してESGエンゲージメント強化及び投資撤退を求める要請書』を送付しました。

その結果、すでに持続可能な社会づくりに意欲のあるいくつかの金融機関と有意義な対話を開始しています。彼らは現場の情報をもつNGOとの対話が問題の解決に重要だと認識しています。一方で、対話に関心を示さず、2030年温室効果ガス排出半減目標への意識が全く感じられない後ろ向きな金融機関もあります。しかし、将来的にはそのような金融機関は淘汰されるでしょう。

引き続き、本要請にかかる情報をウェブサイトやSNSなどで発信していきますので、みなさまの応援をよろしくお願いいたします

『住友商事株式会社に対してESGエンゲージメント強化及び投資撤退を求める要請書』はこちら→ https://hutangroup.org/archives/4096

カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州の貴重な巨大な樹が残る温帯雨林は1%に！

西岡良夫

～住友商事等は木質バイオマス燃料の輸入・使用を止めよ！BC林業相が2年原生林伐採凍結！

苔むす巨木の森、カリブー達が生息する森と湖の原生林。伐採をカナダ・ブリティッシュ・コロンビア（以下BCと略）州が次々と許可した。これにより2020年に温帯雨林のレッド・シダー等の巨木がある温帯雨林の森は僅か1%となった。2017年にはまだ3%残されていたという(※1)。

「プリンス・ジョージ地区東約60km先のLheidli T'enneh First Nationの森は古代の杉やツガであり、廃材として利用される木質バイオ燃料ではありません」とConservation Northのオルークさんは言う。彼はBC州が原生林を伐採する許可をPacific Bio Energy Corp（以下PBECと）に発行していたと。またConservation Northの事務局長コノリーさんは「伐採木製品やペレットの原材料が原生林等の物である場合、再生エネルギーではありません。野生生物の住処をも奪い、伐採しペレットに粉砕して、海外に輸送して燃やしたり、発電所に供給されることは耐え難い大問題です。海岸から500km離れた内陸の温帯雨林は、世界で他の2つの場所にしかありません。バイオマス燃料を製造するために木材を燃やすのは、化石燃料の燃焼よりも効率が悪くて、伐採・輸送・加工・燃焼でのCO2排出量を相殺するのに、木が成長するまでに数百年かかります」と指摘する。(※2)

BC州の温帯雨林の調査とPBEC伐採域と記された森

もう一つの大問題は、BC州政府が切った原生林の位置、面積について地図に落としていなかったと言う。加えてBC州政府、カナダ政府は皆伐し続けていたことを過小評価して、温暖化防止締約国会議COP26に報告。伐採で約80メガトンのCO2が増加することを見落としていた。

だが、COP26での決議されるのを見越して、2021年11月1日、BC州林業大臣はなんと、『原生林伐採2年延期』の方針を打ち出したのだ。

住友商事は2017年にカナダの木質バイオマス企業のPBECにつき同社の約48%の資本を投資し、2030年までバイオマスエネルギーの拡大をする予定だった。しかし、2021年12月、PBEC社は世界2位のDrax社へ売却され、2022年には違う会社の子会社が経営することになった。

私は「住友商事偉いぞ!　問題だらけの仙台のバイオマス発電所停止へ頑張っている」と流した。しかしだ。こんなややこしい状況なのに、まだ住友商事は木質バイオマス事業にしがみつこうとしている。住友商事のホームページでは、はっきり環境を悪化させない、貴重な木を切らないことを明確に記載している。

同社は記載方針に真っ向外れた行動を取り続けている。

住友商事よ、早くバイオマス燃料の事業から足を洗うべきだ！未来なしの投資は無駄で、世界から笑われるだけだ!!

【資料】
(※1)「Endangered Caribou in Canada/ The Narwhal」
(※2)「BC. gives Pacific BioEnergy green light to log rare inland rainforest for wood pellets」
その他：「隠蔽の煙幕：住友商事の『カーボンニュートラル』失敗の数々」

名前プレート付き植林寄付「ボルネオ島に木を植えよう」の輪が広がっています！

missy（近藤美沙子）

日本にいながら植林に参加し、ボルネオ島とつながる方法として1年前に始めた寄付企画「ボルネオ島に木を植えよう」、これまで76本分の寄付をいただきました。小さなお子さんのためやお子さんの進学に合わせて申し込まれる方、ボルネオ島で植林する人とつながるために植樹風景の動画つきプランを選ばれる方、なるべくたくさん植えたいと一人で複数本のご寄付をされる方など…、みなさんから色んな想いを寄せていただいています。

これまで植えた樹種の紹介

✱ウバール・サマック

この木は、樹高は10〜15mとあまり高くありませんが、樹皮を衣服の染色にすることができます。果実はシカ、マメジカ、コウモリなどの餌になります。

✱ウバール・プティ

樹高は15〜25mと比較的高く、材は建材として利用できます。果実はコウモリ、サル、リスなどの動物の餌になります。テングザルだけは実が未熟なうちに食べるそうで、鳥が花蜜を吸うなど様々な生き物の命を支えます。

✱ニャトー

樹高が20〜30m以上になる巨木。材は家屋や舟などの建材として利用できます。果実はオランウータン、テナガザル、テングザル、サル、イノシシ、シカ、マメジカなどの動物の餌になり、人間も食べることができます。

✱クルイン

樹高が20〜30m以上になる巨木で、5年に1回程しか結実しないため苗木を入手するのがとても難しい樹種です。材は家屋等の建物に利用でき、実はイノシシやリスなどの餌になり、シカやマメジカが食べている可能性もあります。

✱イドゥール

樹高は15〜20mと比較的高い。実はオランウータン、テナガザルなどの動物の餌になり、人間も食べることができます。

✱パプン

樹高が20〜30m以上になり、材は家屋の建材の一部として利用できます。毎年なる果実は、オランウータン、サル、鳥、リス、イノシシなどの動物の餌になり、人間も食べることができます。若葉はテングザルの餌にもなります。

私たちの植林への想い

植えている苗木は地域の森から採取し、村の苗床

で大きく育ててから植えています。成長の早さや商業的価値に重きを置いて植林の樹種を選ぶプロジェクトもありますが、ウータンでは長年、元来の生態系の再生と地域での知識の継承を大事にした在来種の植林を行っています。また、「森づくりは人づくり」をコンセプトに、地元の若者たちの育成を後押しするかたちで活動を進めてきました。

参加者さんからの感想

- 動画で植林された様子がよくわかり、やはり動画付きに申し込んでよかったです。
- 早くコロナ禍が終息して、皆さんとご一緒に現地に行けるようになればと願っております。
- 植林も大変だと思いますが、森の生命が少しでも存続してゆく可能性を感じられて嬉しいです。

植えた苗木の管理と生育の状況

2021年4月に第1弾を植えた今回の企画は、先日初めての成長記録を支援者さんたちにお届けしました。植えた苗木は、植えてから1年間のうちに3回のメンテナンス（下草刈りや生育の確認作業）を行い、確実に育つように見守ってきました。下草刈りをする以外は自然に任せているため、苗木の成長はまちまちです。樹種によって違ったり、ちょっとした土地条件や植えた時の苗木のコンディションによっても差が出ます。

全体的には、これまで本企画で植えた木の9割以上がきちんと根付いてくれるという、とても良い結果となりました。現場の人たちは「植えた人の気持ちによって木の生育が決まる」とよく言うのですが、寄付者の方々の気持ちが通じたのかもしれません。

具体的な成長としては、植えた時に40cm前後だった苗木が、大きなものでは1m近くにまで育ったものもあります。一方で、高さの面では大きな変化が見られない苗木もありますが、勢いある新芽を出して元気にしっかり成長していることを現場で確認しています。

これからの成長について

今回植えた木は、早いものでは6〜7年で実をつける樹種や、10年程かかるもの、遅いものでは15〜20年かかる木もあります。これらの木々が生き物たちに食料や巣作りの場所を提供したり、種を散布して森を広げていく未来はまだまだ先ではありますが、想像するとワクワクします。

また、違法伐採により数の減ってしまった樹種もあり、人の手で様々な種類の木を植えることによって元来の多様性の森をつくることを目指しています。その第一歩を支えてくださったみなさまには、深く感謝しています。

植えた苗木は先述の通り、最初の下草刈りによって枯れずに成長していく確率が高まりますが、これからは自然淘汰の中で成長していくかたちとなります。一本一本の木は環境の変化で生育に差が出たり、場合によっては野生動物の影響などで成長が妨げられることもあるかもしれませんが、植林地全体に対してはモニタリングを続けて森になっていくのを見守っていきます。

「ボルネオ島に木を植えよう」は
随時お申し込み受付中です！

▼詳細・お申込みはこちらから
https://hutangroup.org/donation
#PlantInBorneo

▲ お届けした成長記録写真の一例

ウータンメンバーのインタビュー動画をYouTubeにアップしました！

石崎雄一郎

ウータンは、一般層への「啓発→共感→支援」を促し、熱帯林保全に取り組む仲間や支援者の輪を広げるために、日常的に気軽に触れられる広報メディアとして、YouTube動画や写真ギャラリーサイトの制作・更新に取り組んでいます。

2020年度は、ウータンの会員でもあるカメラマンの蝶河舞さんが、ウータンを3分程度で紹介するPV動画を作成してくれました（https://youtu.be/xPd22HKmSUo）。2021年度は、ウータンで活動するメンバーをより身近に感じてもらえるように、「ウータンに関わるようになったきっかけ」や「ウータンの魅力」をインタビューする動画を作成しました。直接話している姿から、それぞれの活動への想いを感じていただけます。また、ウータンに出会うまでの経緯や、ウータンに共感するポイントなど、メンバーによってさまざまなエピソードが楽しめます。2022年度も引き続きインタビュー動画を増やしていく予定です。

Gyroさん～熱帯林の仲間とつながる～ウータン・森と生活を考える会のメンバーインタビュー #環境NGO #熱帯林 #生物多様性

Gyroさん

ウータンのウェブサイト運営に多大な貢献をいただいているGyroさん。普段はITのコンサル業を営み、事業を通してサステナブルな社会づくりにも取り組んでいます。Gyroさんからみたウータンの魅力として、「環境問題を深くまで掘り下げ、インドネシアなどの現地で活動するローカルNGOや村人と同じ目線で熱帯林保全に取り組んでいる」ことなどを語ってくれています。また、グリーンウォッシュに対して厳しい目が世間から向けられる中で、「ウータンは国内外の幅広いNGOと共に、長期間に渡って真摯に取り組みを続けている」点を評価してくださっています。

▶動画はこちら → https://youtu.be/8UMh_hLL6qQ

Missyさん

持ち前のインドネシア語のスキルを生かしてボルネオ島で活動するNGOや村人とのやり取りをおこなっているMissyさん。タンジュン・プティンで村の青年たちと出会って自分がどのように変わったか、森林火災の時に現地を訪れ、命がけで森を守る彼らと共に過ごして見出した自身の役割、ボルネオに暮らす人々とのつながりを感じることができるエコツアーの紹介、在来種で植林を行うことの意義、そして熱帯林保全には森を守り続ける人が必要だと理解するようになった経緯などを

話してくれています。

▶動画はこちら → https://youtu.be/zztFtXdzi2Q 他

Issyさん

初めて訪れた熱帯林の奥深くで一晩キャンプをした時の鳥の鳴き声、虫の声、生命が息づく様子を感じた日のこと、そして翌日に全く生きものの気配のない静寂のアブラヤシ農園を訪れた時の感情、その時から始まったボルネオ島の仲間と共に熱帯林を守る活動、また活動に出会うまでの自分自身の半生について語っています。

▶動画はこちら → https://youtu.be/AcVYSGISYro 他

ウータンの紹介PVやメンバーのインタビュー動画、これまでの学習会の動画などは、ウータンのYouTubeチャンネルでご覧いただけます。今後も情報をアップしていきますので、チャンネル登録していただけると幸いです。

ウータン・森と生活を考える会
YouTubeチャンネルはこちら
→ http://www.youtube.com/channel/UCoMQuZF5bk-z7HlpoaETH2Q?sub_confirmation=1

会員紹介

こんにちわ。蝶河舞と申します。

写真と動画のカメラマンをしており、商業写真や、プロフィール撮影、紹介動画等を制作しています。

アートワークとして猿の写真を撮影していて、ボルネオ島の話を聞いたり、ボルネオの猿の写真を見せていただり、ウータンの動画制作にかかわらせていただく中で面白そうだな、と思ってウータンに関わってみたいと思い始めました。

ボルネオ島の方々の生活も守りながらできることを考える、現地の人とコミュニケーションをとりながら進めていくような、そんなスタイルが素敵だなと思いました。

人の心と自然破壊の関係性とか、日本の杉とボルネオのアブラヤシ、植林、ボルネオの猿の撮影をしたい！ということに興味があります。

環境問題について、勉強は今までしてこなかったのでこれから勉強ができたらと思っています。

元気な植物が育つためにはまずは土から！と思い、知り合いで大地の再生をしている人がいて教えてもらいながら土に触り始めました＊

はっきり何がやりたいかは決まっていないのですが、ボルネオに行って猿の撮影がしたい！というのと、昔から土に触れることでうつ病が改善するということに興味があったので、試してみながら、良い土を作り、人も動物も植物も元気にできる活動ができたらいいなと思っています。

制裁に関わらず米国は依然ミャンマー産チークを輸入

Justice for Myanmarの報告書によると米国は昨年約1600トンのチークをミャンマーから輸入した。これは制裁対象の軍傘下の国営企業から直接でなく民間の仲介業者が国営企業の競売落札後，直接米国に輸出した量だが，さらに多くの量が中国など第三国経由で輸出されたとみられる。軍政下のミャンマーで木材競売は不透明化し，制裁を逃れる企業への対策が困難化し，1億ドルに達するとされる木材貿易からの税収は軍事政権の重要な収入源。輸入されたチーク板や小角材はクルーザー造船や屋外デッキに使われる。[Mongabay 1月11日]

グローバル企業はCOP26の森林公約を実行していない

Global Canopyは森林破壊を生む産品の生産と取引に最も責任のある350社と，それらに毎年5.5兆ドル以上の資金を供給した大銀行，投資企業など150社を分析したForest 500レポートを発表。500社の3分の1は森林に関する公約を全く持たず，残りの企業は大豆，牛肉，皮革など森林関連産品のサプライチェーンで取組がみられた。Cargill，Colgate-Palmolive，Nestlé，Unilever，PepsiCoなど15社が高評価にランクされた一方，中国，ブラジル，アルゼンチンの約60社は最低評価であった。金融機関等150社のうち93社は投資や貸付で森林破壊に関する政策を持たない。[AFP 1月13日]

アマゾンで除草剤が森林を枯らすために使用されている

ブラジル環境省IBAMAはアマゾンの熱帯雨林を枯らすために農薬散布が行われていると明かした。除草剤グリフォサート，空中散布が禁止されている殺虫剤カルボスルファン，ベトナム戦争で使用された枯葉剤2,4-Dなどが土地収奪者により空中散布されると，樹木は落葉し樹勢が衰え数か月後に枯れる。犯罪者は重機を使い枯れた樹木を取り除き，跡に草の種を空中散布し，造成中の農地として売り出す。この伐開方法は皆伐よりも時間がかかるが衛星画像の監視を逃れることができるため2018年以降増加し，森林消失地と農薬購入者を照合した結果，牧牛業者によるものと判明。森林に散布された農薬は住民や野生生物に加え水や土壌を汚染する。[Mongabay 1月19日]

ベトナムの木材合法プログラムは木材輸入に効果なし

ベトナムでは木材産業に関する新たな規制に関わらず，アフリカやアジア諸国から大量の熱帯硬木の輸入が続いている。2018年にベトナムはEUのFLEGTに従い違法木材をサプライチェーンから排除するVPAを締結した。2020年10月に導入された輸入木材合法性保証制度のデューデリジェンス要件手続きは複雑かつ不透明で，カンボジア，カメルーン，ガボン，ラオス，ＰＮＧなどから高リスク木材の輸入は減少していない。ベトナム産高級家具の需要は国内外とも高いが2016年の天然林全面伐採禁止措置で製造業者は輸入に頼るようになり，年間130万㎥のアフリカ産木材を輸入し中国に次ぐ輸入国になった。問題解決には国産材を使用した製品へ国内消費者の購入転換が必要。[Mongabay 2月2日]

EUの森林リスク産品の輸入規制案は懲罰的すぎるか

世界の森林消失の3分の1は国際貿易と結びつき，EUと英国はその16％の年間約20万haの森林を産品輸入で「消費」する。ECの2021年11月の規制案は欧州市場に流通する一次産品が2020年末以降に消失した森林と結びつかないことを証明するよう企業に求める。パーム油，大豆，カカオ，コーヒー，牛肉，木材が該当するが天然ゴムは含まれない。規制案の中核は輸入業者に課されるデューデリジェンス義務である。森林消失とみなす遡及期間が輸入業者や生産国の圧力で短縮され，さらに森林の定義に樹木被覆率10％を閾値に採用することで，生産国で合法とされる産品がEUへ輸入禁止となるが，セラードの木本サバンナの大豆畑への転換を許すことになる。[Mongabay 2月9日]

熱帯林は従来考えられていたより高い再生能力を持つ

Science誌に発表された18か国100人以上の科学者の共同研究で熱帯林は従来考えられていたより高い再生力を持つことが判明した。中南米と西アフリカの77地点で土壌，生態的機能，森林構造，生物多様性の4分類12属性と二次林の遷移期間の関連を分析した結果，軽度の攪乱では回復力が高く，20年後に老齢林の78％に達した。在来植生に隣接し軽度に劣化した二次林では約10年後に土壌の豊かさが回復，20年以内には土壌の肥沃度や炭素貯留量など元の森林の構造と機能が90％まで回復する。しかし森林バイオマス量や種の構成が完全に戻るには120年以上の長い期間を要し，健全な一次林を守ることが肝要と著者らは指摘する。[Mongabay 2月16日]

見逃されているブラジルのマングローブのCO2貯留能力

ブラジルの大西洋沿岸全域に分布するマングローブは表土1mの中にアマゾンを含む他地域の生物群系に比べ単位面積当たり最大4.3倍の炭素を貯留していることが明らかにされた。ブラジルのマングローブの炭素貯留量を初めて定量化した研究で，同国のマングローブはインドネシアに次ぎ世界のマングローブの炭素貯留量の8.5％，年間炭素固定量の13.5％を占める。炭素貯留の潜在性の大きさにも関わらずブラジルのマングローブはパリ協定での排出削減目標で保護が優先される保護地域に含まれず，マングローブの重要性が見過ごされ研究資金も不足している。[Mongabay 3月3日]

ブラジル・アマゾンは今年1，2月に記録的な森林消失

今年1月のブラジル・アマゾンの森林消失面積は昨年同月比4倍以上の430㎢，2月も193㎢と昨年を62％上回った。1，2月は森林消失が最も少ない時期だが，今年の急増は憂慮すべき今後の兆候でもある。アマゾン開発を擁護し，環境官庁を無力化したボルソナロ大統領は，今年10月の大統領選の支持率で対立候補のルーラ前大統領にリードされているため，森林伐開に関わる業者だけでなく，先住民保護区での森林減少と産業活動を促す法案成立をめざす国会議員も躍起になっている。2020年8月から2021年7月までのアマゾンの年間森林減少面積は前年より22％増加し15年間で最大を記録した。[AP 3月11日]

FOREST NEWS インドネシア＆ボルネオの森林ニュース

2000以上の鉱山とプランテーション等の許可を取り消し

ジョコ大統領は2000以上の鉱山，プランテーション，森林利用許可の取り消しを発表。天然資源部門のガバナンスと透明性改善ための一斉評価結果で，未利用あるいは生産的でない事業地，他社に譲渡された事業地，用途や規則に違反したものが対象で，鉱山1776，炭鉱302，伐採とパルプ造林38（132万ha），アブラヤシプランテーション137（170万ha）。取り消されたアブラヤシ事業地のうち140万haは前政権下のパプア・西パプア州のもの。政府は許可取り消し地など国有地100万ha以上を先住民や農民コミュニティ再配分し，企業と連携して利用する機会を与える。［Reuters 1月6日ほか］

サバ州の丸太輸出再開で先住民と生態系への影響懸念

サバ州政府は未加工丸太の輸出禁止を解除した。丸太輸出禁止措置は2018年に前政権が州内の木材加工産業を強化し雇用を創出するために導入した。現政権も2021年4月には輸出禁止を支持していたが，12月30日に天然林からの未加工木材の輸出を適格者に1月3日から限定的に認めると発表。丸太輸出再開で合法材に違法材を紛れ込ませる道が開け違法伐採が再発すると野党は批判。この決定は州政府が60万haの劣化した森林を2035年までに植林地に転換する計画の中で行われ，海外の投資家を引き寄せ，植林の初期費用を得ることが狙い。［Mongabay 1月19日］

泥炭地回復は順調だが難航するマングローブ回復

インドネシアは土地利用転換による温室効果ガス排出削減策として2024年までに泥炭地120万haとマングローブ60万haの回復を目指している。泥炭地・マングローブ回復庁（BRGM）によると昨年の回復実績は，泥炭地は4年間目標の25％と計画通り達成されたが，マングローブは6％以下の達成率。マングローブ回復の障壁はエビや魚の養殖場を造成するためにマングローブ林を伐開した村々からの反対。養殖池の中や堤防上にマングローブを植林するシルボフィッシャリー手法で養殖の生産性を向上させ，マングローブ回復面積を増やすべきと専門家。[Mongabay 2月1日]

サバ州有林の秘密裡の炭素取引は先行きが不透明に

サバ州法務長官は州有林の炭素クレジットと天然資源の権利の売却交渉は，法的不備があり効力を有しないと発言。約200万haの州有林の最低100年間にわたる自然保護協定（NCA）が昨年10月に副首相ら州政府首脳とシンガポールのHoch Standard社の間で調印された。同社が水資源等の自然資本と炭素吸収のクレジット販売を助け収益の3割を受け取り，残りは住民の医療，教育，雇用プログラムに充てられるというが，森林に住む先住民との事前合意形成（FPIC）が行われなかった。この取引が州議会で承認されたという副首相の主張は根拠がなく，不公平な条項や文書の不完全さも露呈。司法長官は全政党の代表が参加する対話が必要と発言し，NGOらは国連の先住民権利特別報告者宛てに書簡を送るなど先行きは不透明に。
[Mongabay2月10日，3月17日]

事業許可取り消しアブラヤシ企業がパプア州で森林伐開

1月6日に環境・森林省から事業許可を取り消された137のアブラヤシ企業のうち，2年以上休業状態にあったPermata Nusa Mandiri社は，免許取り消し直後にパプア州で50ha以上の森林を伐開し農園造成を始めた。この背景には事業権を取得後2年以内に事業権地の30％以上を開発しないと放棄とみなされ接収される規定があるため。農園事業権（HGU）を得てアブラヤシ植栽済みの土地も許可取り消しリストに含まれ，ジョコ政権が混乱した土地利用を本気で制御するか疑問を抱かせる。PNM社の親会社は森林破壊ゼロ公約をしたパーム油巨大企業Salimグループとシャドー企業関係にある。
[Mongabay 2月22日]

アブラヤシ開発による森林破壊が2017年以来の最小

Chain Reaction Researchの分析で，インドネシア，マレーシア，PNGでのアブラヤシ農園開発に起因する森林消失が2017年以来の最低水準に低下した。アブラヤシ農園開発のために伐開された森林と泥炭地は2018年には7.4万ha，2019年には9万haに増加したが，2020年には3.8万haに激減。昨年は1.9万haとさらに半減し上位10社が42％を伐開。NDPE（森林，泥炭地破壊，搾取ゼロ）政策をとるサプライチェーンに関わる企業の森林破壊は僅少であるが，インドネシア政府のパーム油バイオ燃料政策強化で森林破壊の小規模企業から調達される懸念は残る。[Chain Reaction Research 3月7日，Mongabay 3月23日]

国立公園内住民に伝統作物栽培を認める新プログラム

インドネシア各地の国立公園では長年にわたり住民が不法定住し伐開して農業を行い，土地権の獲得を望んでいる。従来の立ち退かせる対応でなく，政府は国立公園と住民の双方に利益となる新たな協働アプローチを開始した。「自然保護パートナーシップ」と呼ばれるプログラムで，住民は土地権の要求をせず劣化した生態系回復のために働くことの見返りに，現在の土地に留まり，「伝統」作物の栽培と籐や蜂蜜など非木材林産物の採取が認められるが，ゴムやアブラヤシ栽培は認められず植栽済みの商品作物は伐らねばならない。2018年に環境林業省が始めたこのプログラムは社会林業プログラムの一種で，現在では69か所，17.7万ha に 拡大した。[Mongabay 3月9日]］

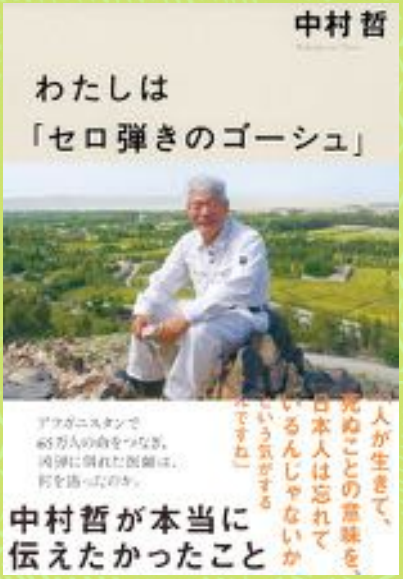
森林モラトリアムの効果と炭素取引価格見直しの必要性

ロンドン大学研究者らがインドネシアの2011～18年の森林伐開モラトリアムの効果を評価した結果，この間に15万haの森林減少を食い止め，モラトリアム地域の森林は地域外と比べ0.65％高い森林被覆を維持したが，泥炭地林では効果が皆無だった。8年間のCO_2排出削減量は869トンと計算されるが，パリ協定での2030年までの排出削減目標29％に対し4％にすぎない。排出削減に対するノルウェーからの支払いはトン当たり5ドルに設定されたが，実際の支払いは1ドル以下で，インドネシアは不利益を被っている。森林減少削減で得られる気候変動緩和の地球規模の便益をより公平に反映した世界規模のより良い炭素価格設定と資金提供が求められる。[Mongabay 3月15日]

イノさんの気まぐれ読書あんない

『わたしは「セロ弾きのゴーシュ」中村哲が本当に伝えたかったこと』

NHK出版 2021年10月



(水路をひくと)何より喜んだのは女性と子どもたち。農村女性の一番辛い仕事がなくなった。

今まで埃の中で体を洗うこともなかった子どもたちが、毎日水浴び、水遊びをしていると、目に見えて病気が減った。サツマイモの種芋が盗まれる。ツルからも増やせるので「ツルも盗っちゃいかん」という噂を流すと翌日から盗られる。非常にわれわれとしてはうれしい……現場にいてこそ見える、貴重な証言が満載。

「誰の立場に立って、誰のためになる支援か」を問う。

30年間の活動のうち、ハンセン病根絶を目指した49歳から、「温暖化のツケを払わされて来た」人々にとって、今本当に必要な「命の用水路」を掘る63歳まで、の六章。対話形式で読みやすい。　(井下祥子)

ボルネオ熱帯写真館 今号の一枚

素敵な名前を持つチョウ

このチョウの頭は下側。上の触角のように見えるものは翅についた「尾」の部分。鳥などの捕食者の目を欺くのに役立っています。しかも常に頭を下にとまり、後ろ向きに歩くという念の入れようで、当然前（尾のある方）に逃げることを予測している捕食者は逆をつかれてしまいます。

ボルネオ熱帯写真館より

▶http://tropicture.hutangroup.org/

会計より

ありがとうございました！

✱ 会費や寄付等をいただいた方

2022/1/1～3/31（五十音順、敬称略）

池田真一、市井晴也、伊東真吾、上杉朋子、大田伊久雄、大槻賢孝、大平浩子、笠原直子、片山千寿子、川口明男、久世濃子、後藤裕己、小松千代子、佐久間香子、関純子、高木光介、高部真一郎、タジー、蝶河舞、寺井栄治、寺川庄蔵、中島小夜子、中野勝行、仲摩栄一郎、野中恵治、長谷川薫、畠山誠子、早山玲子、藤岡正雄、藤田渡、本田実、松井泰憲、松平麻也、松葉純、緑の社会福祉士、宮坂絵利佳、森朋恵、米澤興治、合同食品株式会社 代表取締役 和田友宏

【新会員さんよりメッセージ】
地球温暖化防止活動をしていますが、オランウータンの生息する熱帯雨林保護活動メインで地球温暖化防止活動を行っている貴会に感銘を受けました。今まで、一般の人々への地球温暖化防止啓発において、木質バイオマスはカーボンニュートラルだと説明していたが、誤りだと気付かされました。違う視点から、もう少し深く勉強したいと思います。

ボランティア紹介

こんにちは！大田垣と申します。今年三月に日本の大学を卒業し、9月からの海外院進学に向けて準備を進めております。半年のニート期間で語学や専門の勉強・就活もしつつ、色々な所へ旅行できたら良いなあと考えております。

学部時代の専門は森林水文・農業気象といったところで、インドネシアの熱帯泥炭林の微気象を解析する研究を行っていました。コロナ禍でなかったら実際に現地でフィールドワークもできたはずですが…残念です。

熱帯泥炭林に関する情報を探していたところ、ウータンを見つけ、思わずボランティアに応募しました。現在は世界中の森林ニュースをお届けするメールマガジンの配信をお手伝いしています。神前先生の選ぶ記事はどれも興味深く、原稿を読むのが毎回楽しみでなりません。熱帯林の持つポテンシャルははかり知れず、もっともっと現状や課題が周知されるべきだと考えているので、とても有意義な活動に関わらせていただき感謝しています。

自分自身将来どこでなにをしているのかは全く想像がつきませんが、植物と動物と人が上手く共存する世界に少しでも近づくことを目指して努力していきたいです。

ウータン・森と生活を考える会 主催

ウータンはなぜボルネオ島で木を植えるのか？

2022年6月18日（土）
14:00〜16:00
@ルマ・ボルネオ（大阪都島）

※イベントは地球環境基金の助成により開催します

生物多様性、気候変動…後のない地球環境問題を解決するのは、大企業のテクノロジー等ではなく、自然とともに暮らす大地に根づいた市民の連帯による活動です！
ウータンが地域住民を巻き込んだ在来種の植林に取り組む意義は何か？
好評の企画「ボルネオ島に木を植えよう」の説明、ボルネオ島のタンジュン・プティンから現地村人による特別オンライントーク…昔からウータンをご存知の方も、最近関心を持ってくださった方もぜひご参加ください！

【スケジュール】
・ウータンの活動全体の紹介
・「ボルネオ島に木を植えよう」企画の紹介
・ボルネオ島（インドネシア）からのオンライントーク
・質疑・ディスカッション

日時：6月18日（土）14:00〜16:00
場所：ルマ・ボルネオ
（大阪市都島区都島本通3-8-10）
またはオンライン（Zoom）

参加費：無料

お申込み：専用フォームへ記入
➡https://bit.ly/3kNmy6S
または
contact-hutan@hutangroup.org
まで ①お名前、②連絡先、③参加方法をお知らせください。

終了後、ウータン総会を開催します

ウータン・森と生活を考える会
【OFFICE】〒530-0015 大阪市北区中崎西 1-6-36
サクラビル新館 308
「関西市民連合」気付
Tel.06-6372-1561
mail：contact-hutan@hutangroup.org
http://www.hutangroup.org

【年会費】4000 円
【郵便振替】00930-4-3880
◉購読希望の方は郵便振替で申し込み下さるか、又事務所までご連絡下さい。

この会報は、間伐材と古紙70%配合の再生紙と自然エネルギー(建築廃材等を利用したバイオマス発電)を使用して印刷しました